

## 「サンショウの幼木」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

1年生の女儿が、休み時間に根のついた植物を持ってきた。最初は畑に植えた作物の芽を「間引き」したものだと思った。しかし、よく見ると草本(草)ではなく、木本(樹木)の若い個体(幼木)のようだ。



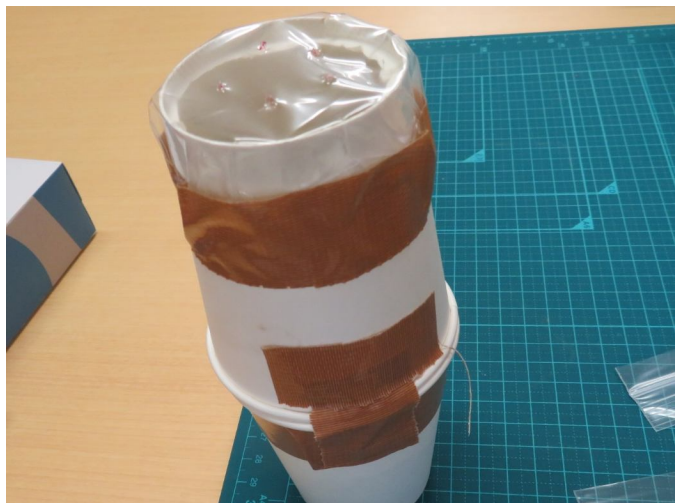
これは「サンショウ」の幼木だった。サンショウは植物体全体(特に葉)に、独特の香りがある。柑橘系と濃い香りだ。サンショウも柑橘類の植物なのだ。この幼木にもその香りがあった。



女儿によると、小学校の畑の近くの地面に生えていて、そこに黒い幼虫がついていたという。「これはアゲハの幼虫ですよ？」と聞くので、「その通り！よく発見しましたね」とほめておいた。幼虫だけでなく、幼虫+葉でもなく、食草全体・・・つまり幼虫の住む環境そのものを採取してきたことが素晴らしい。



女儿は、紙コップで虫カゴを作りたいという。まず土を入れて、サンショウが枯れないようにアドバイスした。女儿は、花壇の土を適量入れてきた。



もう一個の紙コップの底を切り抜き、そこに厚手のポリ袋を貼って、天窗を作ってあげた。



いつでも開閉できるようにしたので、観察や世話もしやすい。幼虫はまだ2齢なので、1~2日はこのサンショウだけで大丈夫だろう。その後はエサをたすようにアドバイスすると、満足そうに家に持ち帰った。